

**反対市民前に「中止なら殺して」  
静岡・三島市長に「批判」殺到**

「中止するならば、私を殺してからにしてください！」

7月23日、市民団体と面談中だった静岡県三島市の豊岡武士市長（75）が突如発言。さらに席を立って靴を脱ぐと、床にどつかとあぐらをかいて「大きな事業には人柱がつきもの」と口にし、打ち首を待つかのように合掌してみた。

市民団体は三島駅前再開発の再考を求めていた。同市は駅前約1・3分の再開発を計画したが、公募で最優秀に選ばれた案は高さ99・5層の高層ビルが建つ内容。「これでは富士山の眺望を遮り、地下水への影響も懸念される」が、市民団体の主張だ。



三島市長室で練り広げられた異様な光景（7月23日）

一方の豊岡市長は「この土地は1997年に国鉄清算事業団から市土地開発公社が払い下げを受けて以来、どこも事業主が現れなかった。20年以上にわたる市の最重要課題だ」と再開発に突き進む。市民団体との認識の落差への苛立ちが冒頭の行動につながった。

たのかもしれないが、「殺してから」とは穏やかではない。同市には8月20日までに市民らからメール約50件と封書1通が届いた。内容は、市長への抗議26件▽市長への賛同4件▽再開発への反対18件▽再開発への賛成3件——など。「話し合いの場であの行動はいかがなものか」「大人げない対応」「殺してから」という言い方はないなどと市長への批判が殺到した。

これに対し、豊岡市長は「不退転で取り組む決意を示せた。少し過激だったかもしれないがパフォーマンスをさせていただいた。私の決意や信念をお分かりいただけたかなと思う」と居直りの構えだ。

三島市では12月9日告示、16日投開票の日程で市長選が行われる。再開発事業に関して豊岡市長は「三島市を持続的に発展させるためにどういう施策をするかが本場の争点だと思う」と争点化を避ける姿勢だ。「殺してから」と意気込む市長を「打ち首」にするのか、延命させるのか。三島市民の裁定の行方が注目される。

（石川 宏）